

# 当別文芸の会だよりNO.85

H29・6/30（連絡先・河地良一 電話 090-5076-2550）

## 6月の読書会は、坂本直行の「開墾の記」（1）でした

朝晩、まだ寒暖の差が感じられる6月ですが、6月17日（土）の読書会は、好天に恵まれ、会員11名のみなさんが参加されました。

今回は、坂本直行の「開墾の記」を2回シリーズで取り上げ、その1回目の読書会です。坂本直行は、幕末の動乱期に暗殺された坂本龍馬の甥で北見のクンネップ原野に入植した北光社の創始者・坂本直寛を祖父に持ち、木材業の子として明治39年（1906）、釧路で生まれています。

昭和2年（1927）、北大農学部を卒業し、東京田園調布の園芸栽培会社に勤めましたが、昭和5年（1930）、十勝の広尾町豊似の野崎牧場で牧畜業を身につけ、昭和11年（1936）に豊似・下野塚の未開原野で開拓に従事しました。

そうした体験を赤裸々に綴った苦闘の記録がこの「開墾の記」で、昭和17年（1942）に出版されました。

坂本直行は開墾の傍ら、四季折々の原野や日高山脈を文章にし、絵筆を取り続け、昭和40年（1965）に札幌に移り、山岳画家として活躍しました。

読書会は東前寛治さんの司会進行で、みなさんの感想が述べられました。開拓の労苦が手に取るように分かり、十勝の山並みを想像しながら、当時のくらしのようすに心情を重ねました。

北海道の開拓は、明治の初めから戦後の開拓に至るまで苦難の連続で、そうした開拓の歴史なしには、今日の生活はあり得ません。

当別文芸の会も、このような北海道のくらしの歴史を忘れることなく、様々な作品に触れる機会を作っていきたいものと思っております。

## 次回の読書会は、7月15日（土）13:30 白樺コミセンです

7月の読書会も、坂本直行の「開墾の記」の2回目（後半）です。資料本をこのたよりNO.85と一緒にお手元にお届けいたします。

## 「当別文芸」（第7号）が間もなく発刊されます

第7号は、執筆者（会員及び町民他で）23名、A4版168ページで、1冊700円で頒布できることになりました。会員のみなさんには、5～10冊の購読ご協力、よろしくお願いたします（問い合わせは、代表・河地まで）。













